

発行
 国立市公民館
 〒186-0004
 国立市中1-15-1
 ☎ 042-572-5141
 FAX 042-573-0480
 休館日：毎週月曜日



あなたは昨日、
 何食、食べましたか？

〈多文化共生事業〉 世界の貧困と私たち
ハンガーバンケット
 ～食べて考えよう 貧富の差～

皆さんは日々の食生活の中で、世界の飢餓や飽食について考えたことはありませんか？
 経済状況、食糧事情、環境等の違いで一日に充分な食事が取れる人の割合は、世界のわずか15%ほどに過ぎません。今回は、こうした世界の格差を疑似体験する参加型ワークショップ、ハンガーバンケット(飢餓の宴)を通して、世界の貧困問題について考えます。

ハンガーバンケットでは、参加者は「高所得者」「中所得者」「低所得者」にくじ引きによって分けられます。それぞれの「世界」の食事の質や量を通してその不平等さを実際に体験し、自分に何ができるのかを考えることが目的です。世界中で定評のあるワークショップです。

食から見える世界の貧困を見つめ直し、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。
 ＊事前にお申込みのうえ、参加してください。
 とき 12月15日(土)

朝10時半～1時半ごろ(朝10時開場)
 ところ 公民館 地下ホール
 助言者 オックスファム・ジャパン
 材料費 500円
 対象・定員 高校生以上 50名(先着順)
 申込先 公民館 ☎(572) 5141

企画・運営 く に たち ハンガーバンケット実行委員会
 ＊お腹をすかせて来てください。



冬 の イ チ オ シ 講 座 !

— ご参加ください —

回	月 日	テーマ	講師
1	12月22日(土)	平成以降の幸福論 ～社会学者がみる社会と家族と男性像～	水無田 氣流 (東京工業大学)
2	1月5日(土)	変化する「男らしさ」と男のアイデンティティ	細谷 聖美 (関東学院大学)
3	1月19日(土)	「イクメン」のその先へ ～「地域」や「介護」への新たな道のり～	渥美 田喜 (東レ経営研究所)
4	2月9日(土)	過労死問題から考える ～ワーク・ライフ・バランスとは言うけれど～	池谷 美衣子 (筑波大学)
5	2月23日(土)	オトコが語る 「家事」と「ケア」	富永 賢公 (日本学術振興会)
6	3月9日(土)	ダイバーシティ社会 に向けた対話	堀本 麻由子 (東海大学)

これまで仕事一辺倒になりがちだった男性が育児や家事などを担う、「ワーク・ライフ・バランス」の実現が求められています。既婚者も独身者も、男性も女性も、自分らしく生きるために、家族や働き方等の問題を考えます。

時間 朝10時～12時 ところ 公民館 3階講座室
 定員 20歳～60歳の方 30名(先着順。女性も参加可)
 申込先 12月7日(金)朝9時から 公民館 ☎(572) 5141
 ＊申込時に参加可能日をお伝えください。

保育 子ども定員15名。講座と同時申込み(保育は市内在住で原則全回参加の方のみ)。12月15日(土)朝10時からオリエンテーションを行います。

いまこそ、オトコ自身が考えよう！
**男性のライフとワークの
 見直し講座**
 保育付

より広がりのある

公民館情報の発信をめざして

第13期公民館だより編集研究委員会のまとめ

公民館だより編集研究委員会は、公民館の機関紙である「公民館だより」を市民に親しみやすくよりよいものにするために設けられ、毎月1回の会議をもっています。任期終了にあたって、活動の報告を掲載します。

「公民館だより編集研究委員会」(以下、「編研委員会」)は、第15期公民館運営審議会(公運審)の意見書により、1986年に、公民館だよりについて市民の立場から読みやすい紙面づくりをしようとして発足しました。

公運審委員3名・一般市民委員5名の計8名の委員が、月1回定例会を開いて、公民館の担当職員も交えて、公民館だよりについて感想や意見の交換、「サークル訪問」欄の作成などを行っています。

任期終了にあたって編研委員会では、2年間を振り返って座談会を開きました。それらの感想や意見をまとめて、第13期公民館だより編集研究委員会のまとめの報告として発信します。

3・11東日本大震災を経て

今期(2010年12月～2012年11月)のスタートまもなく、3月11日の東日本大震災が起こり

ました。翌月の編研委員会で、国立市公民館も帰宅困難者100人余りの臨時宿泊を受け入れたとの報告を受けました。当日の騒然とした様子、毛布や飲み物・非常食の支給など職員たちの奮闘、近所の方たちが手助けに駆けつけてくれたことを聞き、改めて地域の拠点としての公民館の存在と役割を認識する思いでした。

また、市民から募集する救援物資の受付を市役所や市民プラザとともに担っていたこと、計画停電による開館時間の短縮や、取り止めざるを得ない講座も出たことなど、委員会のたびに職員からの報告を受け、落ち着かない時期を過ごしました。こうした時期、常に人がいて市民に開かれていく公民館は、立ち寄りやすく、情報を得やすい場所として、心強い存在であるうとの思いをもちました。

しばらくして、3・11以後の課題に取り組み講座の企画が立ち上げられ、公民館だよりで情報提供

されていくのを委員会としても見守りながら、公民館の役割を痛感した2年間でした。また、公民館だよりの「ひろば欄」では、被災地支援や原発問題などの学習会の情報も多く載せられました。



紙面が新しくなった印象

編研委員会では、公民館だよりの紙面を検討し、意見・感想を編集担当の職員に伝え、改善の努力

の提案をしています。

今年度の公民館だよりは、公民館の活動を親しみやすく紹介して、より積極的に公民館をアピールしていくという姿勢が紙面に表れているとの感想が出されています。職員が公民館だよりをどう改善していくか継続的な話し合いをもつて取り組んでいることの表れと受け止めています。

・4月号「公民館をご利用ください」公民館の3つの「入口」
では、①図書室、②講座・催し、③市民交流ロビーへと多様な利用を案内しています。

・5月号「地域で共に学び、明日を拓く」昨年度の公民館主要事業報告と今年度の取り組み
では、市民の関心に合うよう事業をわかりやすく案内しています。たとえば「各地域で公民館講座を開催」では、南市民プラザでの出張講座、郷土文化館での地域講座や環境講座、福祉会館での「男性の料理教室」の

開催などが紹介されています。

・6月号「しょうがいしゃ青年教室」一緒に活動しませんか?
では、「わいがや」での感動エピソードも載せながら、青年向けの活動を紹介しています。また、3面の「平成24年度・重点目標」の中では、「より広がりのある公民館情報の発信」として、公民館だよりのホームページ閲覧を開始したことが報告されています。

・7月号の2面では、「1日あたり21人が利用」(23年度の公民館会場利用統計から)が紹介され、年間延べ7万人以上が利用団体での利用回数は22年度より増加しており、公民館の利用率の高さを知ることができます。

「サークル訪問」はなぜ熱が入る?

委員は交代で市内のサークル活動を取材して当欄を書いています。

取材・執筆など初めての経験の委員も多いので、任期初めの2月には、元編集者で専門学校講師の西村良平さんの研修を受け、「親しめる紙面づくり」を学びました。座談会の中で、サークル訪問について活発な意見・感想が出ました。「おかずクラブ」の取材では、見知らぬ国に来て生活する外国人を、スタッフが主婦の経験から生活の知恵を教えたり、優しく気遣っている様子に感動した。スタッフにならないと、私たちは市民はこうした外国人と接する機会をもてない。自分が知らないことを取材させてもらえるので、新しい体験で楽しい。

取材すると、ミイラ取りがミイラになることがある。謡の会など全然知らなかった世界。不思議な感じで衝撃を受け、入会した。

・公民館だよりの記事の中で一番読まれているだろうと思っている。取材者から見たサークルの生の姿を知ることができ、取材者の感情が入るから面白いのかもしれない。

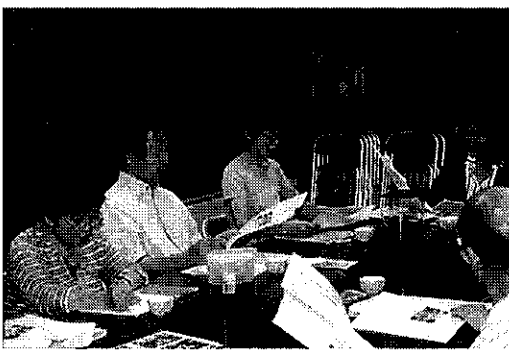
・サークル訪問を読んで新しい入会者が来たと聞くと嬉しい。

・自分が取材に行かなくても、文章で訪問した疑似体験ができるのではないだろうか。

・市民の立場として取材をして記事を書くというチャンスはほとんどないことで、貴重な経験ができる。

・私たちは最先端で市民との交流をしているとも言えるのではないかと。それだけ感動もあるし、人との出会いもある。それは公民館活動の意味ともつながるのではないかと。

・取材・記事づくりは苦勞した分、充実感も大きい。多くの人たちに編集委員を経験してほしい。



編集委員会の役割は？

座談会では、紙面批評をしなから、編集委員会の意義は何か、という話題になっていきました。前期の報告でも「親しみやすい紙面

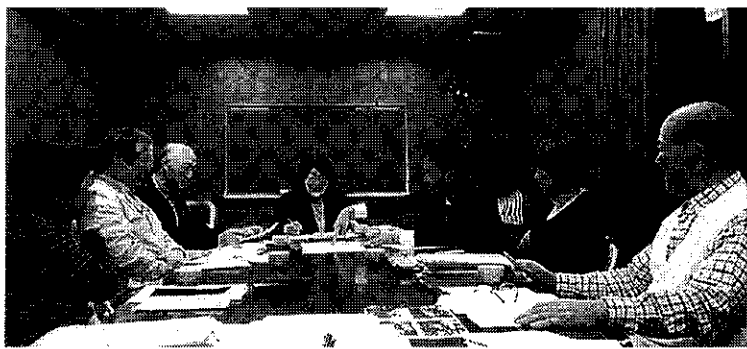
をめざして」と掲げていますが、二年間携わり、とても難しいことを実感しています。次へのテーマをもつために、さまざまな意見やいくつかの提案も出されました。

・紙面を見やすく、親しみやすくという点では、デザインの工夫やイラストを入れるなどの提案をしてきている。最近はいぶ改善されたと思う。7月号の「介護短歌はじめませんか」の講座報告など、とても良かった。

・以前に比べて、興味がもちやすい紙面になっている。若い担当者のセンスか。

・公民館自体が新しい試みをしている。市民と双方向でつくっていくようにしているのが、公民館だよりに見て伝わってくる。

・自分の生活に関係ないと読まないが、見せ方や表現のしかたで読んでもらえるのではないかと。公民館に慣れていない人がなかなか入ってきにくいということはある。市民が調べて作った歴史・文化・自然マップにわたちの魅力 再発見！地域史講座(まなびあるき)(12年9月号)などは入りやすいと思う。「英国王のスピーチ」のよいうな良い映画の上映なども市民が関心をもつような工夫があると思う。



熱が伝わってくる。

・委員になったことで、公民館の職員がすごくがんばっているのを知った。それを知らせたいと思う。「公民館の窓」は、書いた職員の顔が見え親しみももてるので継続して載せてほしい。

・公民館だよりは、他の市広報紙と違って、何か載っているのではと楽しみにして開く。公式発表と、自分で勉強して知りたいという違いかもしれない。

・震災のあと、公民館の大きさがもつと身近になった気がする。

・国立の公民館は人間味がある。他市のりっぱな施設の公民館も見たが、それで市民がハッピーなのか疑問。人間味があるのが一番大事な要素だと思う。

・あくまで市民の生活があつて、ものごとが決まっていくということを大事にしてほしい。

・東日本大震災を経た今こそ、これからの社会と地域を考えていくために、市民が相互に考え合い学び合う公民館の役割は大きくなっています。公民館の活動と市民をつなぐ場として、「公民館だよりに」がますます豊かな内容をもつものになるよう、これからも見守り続けていきたいと思えます。

第13期
公民館だより編集研究委員会
富田和枝(委員長) 森本信雄(副委員長) 石垣章 井原順子
*小原正子 梶原直子 *武内法行 *松本陽
*は公民館運営審議会選出委員

第28期公民館運営審議会

活動のまとめ

(任期2010年11月1日～2012年10月31日)

公民館運営審議会は、市民団体

や学校教育の関係者、社会教育の専門家などで構成され、月1回開かれています。公民館事業に市民の意見を反映するため、活発な議論を重ねています。2年間の活動のまとめを掲載します。

はじめに

第28期国立市公民館運営審議会(以下、公運審)は、2010年11月から活動を始めました。委員15名(社会教育活動団体・機関推薦者12名、学識経験者2名、学校教育関係者1名)のうち、前期から引き続きの委員は6名、初めての委員は9名でした。

第1回定例会で、教育長職務代行から委嘱状が手渡され、まずは正・副委員長、各種委員を選任しました。続く数回の定例会では、社会教育の基本を学び、公民館活動の現状を知ることにもつばら時間と精力を割きました。ただし、そのことに専念できた期間は短く、すぐに、公民館が直面している様々な課題に向かい合うことになりました。

館長からの諮問「公民館図書室の管理・運営について」

にちなみ、答申を提出

今期の公運審が取り組んだ課題の第1は、2011年3月の第5回定例会で当時の公民館長から出された諮問「公民館図書室の管理・運営について」を受けて、答申を行うことでした。

公運審では、2011年4月から、公民館図書室について、その誕生と今日までの歩み、活動の現状などを調査するとともに、図書室の意義と役割、機能などについて検討しました。また課題毎に3つの小グループを設け、合わせて9回の会合を開き、議論を重ねました。加えて、図書室利用者へのアンケートを実施し、「生の声」を聞くことも試みました。こうして完成させたのが、2011年12月に公民館長に提出した答申です。

「公運審のあり方について」

の報告書を作成、提出

課題の第2は、「国立市公民館運営審議会のあり方について」ま

とめ、「報告書」として公民館長に提出することでした。

2012年3月市議会に「国立市公民館条例」の改正案が提出されました。条例の中に新たに「公運審委員の委嘱についての基準」に関する条項を設けるというのが主な改正点です。

市議会では、この条例改正案は異論なく可決されたのですが、改正案が議題とされた時に、何人かの議員が「公運審のあり方」を取り上げました。

こうした中で、2012年7月の第21回定例会で、「この際、公運審自体が、あり方について考えをまとめておくべきである」との意見が出され、「意見書」を作成し、公民館長に提出することにしました。任期末まで、委員に与えられた時間はわずかでしたが、各委員には就任以来1年半の蓄積もあり、検討は速やかに進み、2012年10月「国立市公民館運営審議会のあり方について」意見書をまとめ、館長に提出しました。

「意見書」では、公運審の役割は館長の諮問に答えるに止まらないこと、現行の人数、開催回数が多過ぎることはないことなどを、歴史や現状を踏まえて説いています。また、公運審委員の選出方法については、「透明性を確保する

活動記録

- 10・11・9 「第1回定例会」 委嘱状伝達。委員長、副委員長を選出。東京都公民館連絡協議会(以下、都公運) 委員部会委員、公民館だより編集研究委員、社会教育学習会委員を選出。
- 12・12 第48回東京都公民館研究大会(委員10名参加)。
- 12・14 「第2回定例会」 委員研修「公民館とは」。
- 11・1・11 「第3回定例会」 委員研修「公民館予算について」。
- 1・17 「公民館の館長人事に関する要望書」を提出。
- 2・8 「第4回定例会」 公民館の施設、設備見学。
- 2・26 都公運委員部会研修会(講師・片野親義氏) 委員2名参加
- 3・8 「第5回定例会」 委員研修「社会教育・公民館と文化・スポーツ活動」。館長より諮問「公民館図書室の管理・運営について」
- 3・22 「第1回臨時会」 公民館長の人事について。
- 4・12 「第6回定例会」 「11年度の公民館予算」。
- 4・15 「公民館人事に関する要望書」を提出。
- 4・20 都公運総会。山家委員長、委員部会副会長・都公運役員に就任。
- 5・10 「第7回定例会」 「11年度の事業計画」。
- 6・12 国分寺市立並木公民館公運審との交流・研修会。
- 6・14 「第8回定例会」 「11年度の事業計画」。
- 7・12 「第9回定例会」 諮問事項の討議。
- 7・24 都公運委員部会全体会・研修会(講師・辻浩氏) 委員2名参加。
- 8・9 「第10回定例会」 諮問事項の討議。
- 8・16～9・9 諮問事項につき小グループで話し合い。
- 9・13 「第11回定例会」 各小グループから報告、討議。
- 9・27～10・7 図書室の「アンケート調査」を実施。
- 10・11 「第12回定例会」 答申案作成のグループを組成。
- 11・3 答申案作成のためのワーキンググループ会合。

べき」「公募枠についても考慮するべき」として、今後の検討を促しています。

職員体制の充実の確保を

目指し、意見書

課題の第3は、公民館の職員体制の充実の確保でした。

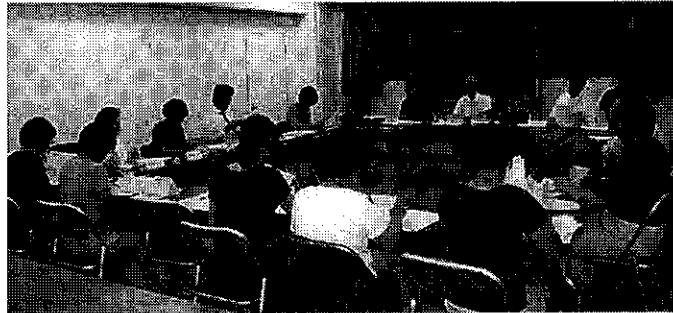
国立市公民館の職員体制は、近隣他市に比べ充実しているといえます。主催講座の質、量ともに評価が高いのはその1つの現れでしょう。

しかし、今期、その充実に陰りをもたらす人事異動が相次ぎました。2011年4月には、勤務4年の若手職員(社会教育主事)が本人の希望なしに異動させられ、後任には新規採用の職員が充てられました。2012年4月には、定年退職したベテラン職員の後任に新規採用の非常勤職員2人が充てられました。

こうした異動のつど、公運審は、市長と教育長とに「要望書」を提出し、よりよい公民館活動の実現という観点から異動の問題性を指摘するとともに、職員体制を充実させることの重要性を訴えてきました。

おわりに

今期公運審の任期中に東日本大



熱心に話し合う委員のみなさん

震災がありました。大震災前と大震災後と、日本社会は大きく変化しました。そうした中で、大震災後(次の大震災前)の公民館のあり方を構築していこうという動きが研究者等の中に生まれています。また、この大震災の際に、国立市公民館が多くくの帰宅困難者の宿泊所となりました。

社会には、孤立死が言われるように人と人とのつながりが失われている現実があり、人と人とを結びつける場としての公民館の存在が見直されています。

一方で、自治体の財政難など、公民館を取り巻く状況は厳しいものがあります。

第28期国立市公民館運営審議会
 山家悠紀夫(委員長)
 山崎功(副委員長)
 伊藤雄司(12・3・31)、井上恵子、大塚靖子、大原和子、尾崎正峰、小原正子、久野千鶴、佐藤節子、佐藤ミエ、鈴木紀代子、高橋平徳(11・4・30)、武内法行、戸井田展、二宮颯(11・9・30)、松本陽、山崎由紀子

のがありますが、先行きは必ずしも悲観すべきことばかりではありません。

今期の公運審の活動が、国立市公民館が市民の真の力となるための、幾分かの助けとなるものであったとすれば、それは委員一同にとって、とても喜ばしいことです。

東京都公民館連絡協議会委員部
 会委員 山家悠紀夫
 ・公民館だより編集研究委員
 小原正子、武内法行、松本陽
 ・社会教育学習習会委員
 山崎功、大原和子、鈴木紀代子、高橋平徳、松本陽、山崎由紀子
 ・社会教育委員の会委員
 佐藤節子

※紙面の都合により、一部省略しています。全文は公民館または市ホームページでご覧いただけます。

11・8	「第13回定例会」答申案について討議。
11・27	都公運委員部会研修会(講師・近藤均氏) 委員3名参加。
12・11	第49回東京都公民館研究大会(委員12名参加)。
12・13	「第14回定例会」公民館図書室の管理・運営について答申を提出。
12・1	「国立市公民館の職員配置に関する要望書」を提出。
1・10	「第15回定例会」市公民館条例の改定につき意見交換。
2・14	「第16回定例会」12年度公民館予算案。
2・20	「公民館の職員配置に関する質問書」を提出。
3・3	都公運委員部会研修会(講師・伊東静一氏) 委員4名参加。
3・13	「第17回定例会」学習会「戦後多摩の公民館活動の歩み」(講師・小林文人民氏)。
4・10	「第18回定例会」11年度事業報告」等。
4・13	都公運総会。委員部会長・都公運役員に就任。
5・8	「第19回定例会」12年度の取り組み」等。
6・12	「第20回定例会」12年度予定事業」等。
6・27	福生市公民館・公運審との交流・研修会。
7・10	「第21回定例会」公運審のあり方について」報告書を作成する方針を決定。
7・15	都公運委員部会全体会・研修会(講師・萩原建次郎氏) 委員10名参加。
7・15	「公運審のあり方について」3つの小グループで検討。
8・14	「第22回定例会」公運審のあり方について」報告書案作成のためのワーキンググループを組成。
9・2	ワーキンググループ会合。
9・11	「第23回定例会」公運審のあり方についての報告書」と「第28期公運審活動のまとめ」を検討。
10・6	都公運委員部会研修会(講師・小笠原東生氏) 委員4名参加。
10・9	「第24回定例会」公運審のあり方についての報告書」決定、館長に提出。
	「第28期公民館運営審議会活動のまとめ」決定。

〈平和講座〉
—世界のいまを知る—
「アラブの春」から「アラブ世界」を考える

講師 ^{うすき} 臼杵 ^{あきら} 陽(日本女子大学、日本中東学会会長)

2010年末チュニジアでの政変をきっかけに起きた「アラブ革命」によって中東・北アフリカ地域各国で長期間維持されてきた政権が崩壊し、同じ時代に生きる私たちはアラブ世界の大きな転換点を目撃しました。

本来は日本との関係が深い地域にもかかわらず、どこか遠い国というイメージができたのはなぜなのか。日本との関係を探りながら、アラブ世界を学んでいきます。

①12月19日 「アラブ世界」を知る

「アラブ世界」の定義とは何か。地理的、政治的、歴史的、多角的に捉えます。

②12月26日 「アラブの春」にみるアラブ世界のいま

「アラブの春」が起きた社会的背景はどのようなものなのかを探ります。

③1月9日 これからの「アラブ世界」

日本や欧米との関係を考慮しながら、今後のアラブ世界が抱える課題を考えます。

とき いずれも水曜日 夜7時～9時(全3回)
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(先着順)
申込先 12月7日(金)朝9時～
公民館 ☎(572) 5141

〈哲学講座〉
長谷川宏さんと読む
「曾根崎心中」「心中天の網島」

講師 長谷川 宏(哲学者)

ヘーゲルの翻訳や哲学研究で多くの著作を著している長谷川宏さんを講師に、今年度は江戸時代前期の人形浄瑠璃作家の近松門左衛門が著した「曾根崎心中」「心中天の網島」を取り上げます。相思相愛の男女が愛や義理などの情に翻弄されながら二人で自ら死を選ぶという、江戸時代を代表する悲劇です。講座では読書会形式で感想や意見等を出し、哲学の観点から考察します。テキストは新潮社『新潮日本古典集成 近松門左衛門集』または上記作品の文庫本を各自で購入し、事前の一読の上ご参加ください。

〈長谷川さんの著訳書〉ヘーゲル『精神現象学』の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞を受賞。『初期マルクスを読む』(岩波書店)『高校生のための哲学入門』(筑摩書房)ほか多数。

とき 1月5日、12日、26日、2月2日、9日
いずれも土曜日 昼2時～4時(全5回)
ところ 公民館 3階講座室
定員 30名(先着順。原則全回出席できる方)
申込先 12月11日(火)朝9時～
公民館 ☎(572) 5141

〈図書室のつどい〉
タマゾン川
—多摩川でいのちを考える—

講師 ^{やまさき} 山崎 ^{みつあき} 充哲(NPO 法人おさかなポストの会)

「タマゾン川」。南米のアマゾン川にすむアロワナやピラニアなど、多摩川で本来いるはずのない魚たちが発見される様子を見た山崎さんはそう表現し、流行語にもなりました。

外来魚などが川に捨てられる問題に対して、山崎さんは魚を引き取る「おさかなポスト」の活動を続けています。

半世紀前に「死の川」と呼ばれるほど汚れていた多摩川は、下水処理場の増加により、アユが100万匹ものほってくる川になりました。しかしその一方で、家庭で排出するお湯が冷めないまま下水処理されることで、外来種が住みやすい環境になってしまっているという現状があります。

わたしたちの身近な川、多摩川の抱える問題を知り、川とそこに生きるいのちにどう向き合っていくかを考えます。

〈山崎さんの本〉『タマゾン川』(旬報社)、『いのちの川—魚が消えた「多摩川」の復活に賭けた男—』(幻冬舎) ほか

とき 12月16日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階集会室 *ご自由においでください。

くにたちブッククラブ「さまよえる心と言葉2」
萩原胡太郎『猫町』(岩波文庫)

講師 東郷 克美
(早稲田大学名誉教授・日本近代文学)

とき 12月13日(木) 夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎(572) 5141
*今回は1月10日(木)津村記久子『ボトスライムの舟』(講談社文庫)です。



〈CINEVOX 公民館映画会〉
『裸の島』
近代映画協会 1960年 白黒 96分

監督・脚本 新藤兼人 撮影 黒田清己 音楽 林光
出演 乙羽信子、殿山泰司ほか

5月29日に100歳という天寿を全うされた、日本映画を代表する巨匠・新藤兼人監督。今回の映画会は、モスクワ国際映画祭グランプリ受賞によって新藤兼人の名を世界に知らしめた代表作『裸の島』を上映します。

瀬戸内海に浮かぶ小島を舞台に、自然と闘いながら生きていく人間の姿を、一切のセリフを廃し、映像だけで描いています。既成概念にとらわれず、常に新しい表現を模索し、独自のスタイルを追求し続けた新藤兼人の、最も新藤兼人らしい作品といえるでしょう。

とき 12月23日(日) 昼2時～
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。



遠い春を思う―第三公園前―
撮影 徳永 保さん(東)

ひろば

(8ページにもあります)

《子ども向け自由研究 in 北市民プラザ》 わくわく科学実験 彦一凧を作ろう

お正月まであと一か月！ 学校や家でできない科学実験に挑戦してみませんか。今回は揚力（浮かす力）を学びます。凧はなぜ風を受けることであんなにも高く舞い上がるのでしょうか。彦一凧を作って学んでみましょう。天候がよく、風が吹いていれば、第四小学校で飛ばします。
*彦一凧とは…里村彦一さんが考案したもので、グライダーの原理を利用して空に張り付いたように空高く舞い上がります。



講師 く に たち ヤ ッ ホ ー ☆ 広 場 の 皆 さ ん

とき 12月28日(金) 昼1時～夕4時
ところ 北市民プラザ 多目的ホール 材料費 600円
対象・定員 小学校高学年～中学生 10名(先着順)
申込先 12月8日(土) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

国立泉句会
五七五の俳句を自由に楽しく作りませんか。花の名前や漢字も自然と覚えるようになります。初心者の方もお気軽にご参加ください。五句持参。見学無料。会費千円。
日時 毎月第二日曜日 昼1時
場所 福祉会館3階
連絡先 田中(577) 7018

「楽書会」へのお誘い
千字文をお手本に、楽しみながら学んでいます。杉山雅風先生が親切に指導。初心者の方もどうぞ。国立在住の60歳以上の方なら入会できます。会費月千500円。
日時 毎週金曜日 朝10時～12時
場所 福祉会館3階 中会議室
連絡先 小橋川(575) 3157

男性の料理教室

=きのこのキッシュ=

今月はきのこのキッシュを作ります。キッシュとは卵のパイのようなフランスのアルザス・ロレーヌ地方の郷土料理です。他にチキンポトフ、サラダ、洋風ライス、デザートを作る予定です。初めての方もどうぞご参加ください。

講師 北川 みどり(管理栄養士)

とき 12月15日(土) 夕4時～7時
ところ 福祉会館 料理講習室 定員 20名(先着順)
費用 一人800円(予定額)

※12月13日(木)までに公民館へお支払いください。お支払いのない場合は、キャンセル扱いになります。受付時間：朝9時～夕5時(月曜日以外) 食材購入後のキャンセルは実費を負担していただきます。精算は教室の当日に行います。

持ち物 エプロン、頭巾(タオルでも可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)
申込先 12月7日(金) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

《く に たち 市 民 メ デ ィ ア 構 想 会 議》 「市民メディア」をつくらう！ ―具体化に向けたワークショップ―

助言者 白石 草(OurPlanet-TV 代表、一橋大学等講師)

地域におけるメディア実践のあり方を参加者の皆さんと議論する市民会議の続編です。

助言者は以前に引き続きインターネット放送の先駆者で、各地でメディア作りのワークショップ講師も務める白石草さん。これまでの議論の蓄積をシェアし、さらに具体化します。国立発「市民メディア」が生まれていくプロセスへ、共に考え行動していく意欲的な参加をお待ちしています。

(白石さんのプロフィール) 著書に『メディアをつくる』(岩波書店)、『ビデオカメラでいこう』(七つ森書館)ほか。一橋大学では授業「電子メディア論/デジタルメディアの実践」を担当。

とき 1月10日(木) 夜7時～9時
ところ 公民館3階講座室 定員 30名(先着順)
申込先 12月11日(火) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

しょうがいしゃ青年教室

陶芸講座作品展



陶芸講座の参加者が作った、コーヒーカップやトースト皿などを展示します。作品展終了後は公民館の喫茶「わいがや」で使われます。おいでください。

とき 12月16日(日) 夕4時～23日(日) 昼2時
ところ 公民館 1階市民交流ロビー

*陶芸講座(講師 木村富美枝・大野博美)は、滝乃川学園の協力を得て5月から11月まで行いました。

公民館運営審議会報告

11月13日(火) 第29期第1回例会を開催。委員15名、教育長、館長、職員2名が出席。傍聴3名ははじめに教育長から各委員に委嘱状を伝達。各委員の自己紹介の後、委員長に山家悠紀夫氏、副委員長に山田哲也氏、公民館だより編集研究委員に石井直美氏、大井利雄氏、長田利信氏、社会教育学習会委員に佐藤節子氏、杉野聖子氏、間瀬英一郎氏が選出された。その後、今後のスケジュールについて要望があった。
次回の委員会は、12月11日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。

(公民館)

今月の公民館 (12月、1月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 13日(木)夜 くにたちブッククラブ「萩原朔太郎『猫町』」
- 15日(土)朝 世界の貧困と私たち「ハンガーバンク」
- 15日(土)夕 男性の料理教室「きのこのキッシュ」
- 16日(日)昼* 図書室のつどい「タマゾン川」
- 16日(日)夕~ しょうがいしゃ青年教室「陶芸講座作品展」
- 19日(水)夜~ 〈平和講座〉世界のいまを知る
「アラブの春」から「アラブ世界」を考える
- 22日(土)朝~ 「男性のライフとワークの見直し講座」
- 23日(日)昼* CINEVOX『裸の島』新藤兼人監督
- 28日(金)昼 わくわく科学実験「彦一丸を作ろう」
- 1月5日(土)昼~ 〈哲学講座〉長谷川宏さんと読む
「曾根崎心中」「心中天の網島」
- 10日(木)夜 「市民メディア」をつくろう!

公民館 年末年始休館のお知らせ

12月29日(土)~1月3日(木)

*1月5日(土)の会場調整会の参加申込書投入期限は、
1月4日(金)午後5時です。ご注意ください。

ひろば (7ページに もあります)

童謡を歌う会 参加者募集

「赤とんぼ」「ふるさと」など懐
かしい曲をピアノ伴奏で一緒に歌
いませんか。お子様の参加も歓迎
日時 第三(水)または(日)昼2時
場所 グルックスタジオ
連絡先 今東(983) 1083

第40回元巨マラソンのお知らせ

10km一般男女・高校男子、5km
中学男子、3km40歳以上男子・一
般女子・中学女子・小学生(親同
伴)。参加費は当日徴収。

日時 1月1日(火)朝9時集合
場所 多摩川河川敷グラウンド
連絡先 北島(572) 8311

クリスマスダンスパーティー

地元でどなたも踊れて楽しいク
リスマス会です。ぜひどうぞ。リ
ボン待機。デモキシンクヤトラ
イアル有り。会費800円。茶葉有り
シャルウィダンス国立

ダンスパーティーのお知らせ

クリスマスのひとつときをダンス
で楽しく過ごしませんか? 当日
はリボンさん待機、茶菓子あり。
お友達も一緒にお誘いください。
会費500円。主催「サンメイト」

日時 12月23日(日)昼1時~4時
場所 福祉会館 4階大ホール
連絡先 伊東(575) 7231

第9回さわやか水彩画展

水彩画をのびのびと楽しく描く
ことをモットーに活動しているサ
ークル「くにたち彩の会」です。
作品展を開催しますので、ご覧く
ださい。7日のみ昼1時。

第174回くいしんぼクラブ アインさんのベトナム料理

野菜たっぷりの家庭料理を教え
ていただきます。材料費800円。ゴ
ミ袋とふきんをご持参ください。

日時 12月16日(日)昼1時
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

国立親書の会 会員募集

初心者から上級者まで楽しく書
道を学んでいます。内容も漢字、
かな、日常の書など希望に応じた
指導が受けられます。皆様ご一緒
に筆を持ちませんか。

日時 第一、三(火)朝10時~12時
場所 芸小ホール アトリエ
連絡先 吉村(576) 5582

来年2月より、ロビーの使用 申込みが2カ月前から行えます

会場の使用申込みは前月第一土
曜日から受付けていますが、来年
2月からは、市民交流ロビーに限
り、2カ月前から行えるようにな
ります。

*2月2日(土)に、3月と4月使用
分の受付けを開始します。
ご不明な点は公民館まで。

〈サークル訪問25回〉 編もないと

この日はあいにくの雨だったが、
歩いて公民館までくるとやはり汗
が出る。汗をふきふき中集會室へ
入ると、サークルの皆さんは以前
からの仲間のように私を迎えてく
れて、緊張がいつべんに解けた。
手元を見るとセーターのようなも
の、赤ちゃんのケープ、テーブル
クロスなどを編んでいる。女性ば
かり6人、手指が機械のように動
いていた。

「編もない」というサークル
名は化石のアンモナイトをもじっ
た名称だそうだが、しまい込まれ
ている古い毛糸などを掘り起こし、
新しいデザインで自分や家族のた



編んで 話して 楽しまないとい

めに生かすというねらいでやって
きて、15年もたったという。

年長の方が「編むことに集中す
ることでストレス解消になり、ま
た指先を使うので脳の活性化にも
なっています。若い人たちもお
話しができるのも、この編み物
のおかげです」と言っておられた。
石川さんと内山さんとでメンバ
ーへの指導やアドバイスをしてお
り、在籍者は9名だがいつもは6
~7名。課題も宿題もなくメンバ
ー自身が思い思い、どんな材料で
どんなものを編むかを決め、自由
気ままに編んでいるのがサークル
の特徴かもしれない。どなたでも
(男性も可)気軽に参加してほし
いとのこと。

皆さんのお人柄か、編み物して
いる表情は笑みがこぼれんばかり
で、まるで姉さんと妹が一緒にや
っているような雰囲気。新しく仲
間入りしようという人には最高の
条件ではないだろうか。そんな部
屋の空気に包まれ、去りがたい気
持ちをこらえて部屋を後にした。

毎月第一、三木曜日昼1時から
4時まで公民館で活動。
連絡先 石川(42) 9810

〈文・写真 森本信雄〉

*この欄を執筆している公民館だ
より編集研究委員会の活動報告を
2~3ページに掲載しています。